

用ニ常ニ深林ニ巣ヒ、朝ニ遠去テ申後魚ヲ含ミ歸ル、群鳴甚喧シ、聲烏鵲ノ如クシテ濁ル、棲トヨロノ樹下草木生ゼズ、糞ニ毒アル故ナリ。

〔延喜式四伊勢大神宮〕神寶二十一種○中略

須我流橫刀一柄  
柄長六寸、鞘長三尺、其鞘以金銀泥畫之、柄以鶴羽纏之。

〔古今著聞集九弓箭〕此むつるの兵衛尉懸矢をはがすとて、とうの羽を求けるが不足しければ、郎等共にもしや持たるとたづねければ、上六大夫といふ弓の上手聞て、此邊にとうやはみ候、見よといひければ、下人立出てみて、只今河より北の田にはみ候といふを聞いて、則弓矢を取て出たるに、とう立て南へとびける。○中略

或所に的弓射けるに、晩に及ければ、明日や勝負すべきなど、人々いひける所、源三左衛門尉翔來りけり。○中略 左衛門尉平助綱は、つやく弓引はたらかす事叶はざりけるもの也けり、家の棟にとうの飛きてゐたりけるを、是はいむなる物をと思って、立出てみると、下人左右なく弓矢をとりて、あたへたりければ、なほざりにとりて、いたりける程に、あやまたず射おとしてけり。

〔大塔物語〕長秀○小笠原其日出立○中略 鶴焦羽作矢負者百人○下

〔武江產物志〕水鳥類 紅鶴 千住

〔新撰字鏡〕鷗鳥 侯反、水鷗白佐支、又海加毛。

〔倭名類聚抄十八〕鷗 唐韻云、鷗鳥侯反、和名加毛米、水鳥也、兼名苑云、一名江鷗。

〔箋注倭名類聚抄七〕鷗 按玉篇、鷗、水鳥也、孫氏蓋依之、說文、鷗、水鷗也、山海經云、鷗水鷗也、吳都賦注、引蒼頡篇曰、鷗大如鳩、列子黃帝篇借漚字、李時珍曰、鷗生南方江海湖溪間、形色如白鷗及小白鷗、

長喙長脚、群鷗耀日、○中江鷗之名未聞、李時珍曰、江夏人譙爲江鷗、

〔類聚名義抄九〕鷗音漚、水鳥、

江鷗カモメ